



真宗大谷派西勝寺住職

にしやま さとし  
西山 郷史

「能登はやさしや土までも」という言葉を、土地の少年の笑顔と教養に驚き初めて紹介したのが、1696(元禄9)年の浅香久敬ひさたかの旅日記でした。その後も風俗の質朴さ、篤実が「やさしや」として紹介されます。土もやさしい、あれもやさしい、これもやさしい、そのすべてを包み込んだことばが「土徳とくとく」です。



## 能登の土徳

土地を愛し、すべてが庭のように入手が行き届いている光景を届けてくださった先人。そこには、生かされていることに感謝し、素直に「おかげさまで…」と手が合わさる教えの日々がありました。能登には、自然と仏の教え、人の営みのやさしさが凝縮されています。今年も、仏の慈悲の象徴である月光が分け隔てなく梅の露を求めて宿り、小さないのちを育む梅雨(露)を迎えました。土徳が積み重なっていきます。(珠洲市)

里海の塩田、里山の棚田。